

グローバル生産における生産管理情報の連携性向上

岩田和晃*
黒田 晃*

Cooperation Improvement for Global Production

Kazuaki Iwata, Akira Kuroda

要 旨

三菱電機の事業では中国を中心にアジア地区の需要が拡大している。これに対応するため、海外の消費地近傍に生産工場を設け、増産体制の整備、製品供給力の向上を推進している。

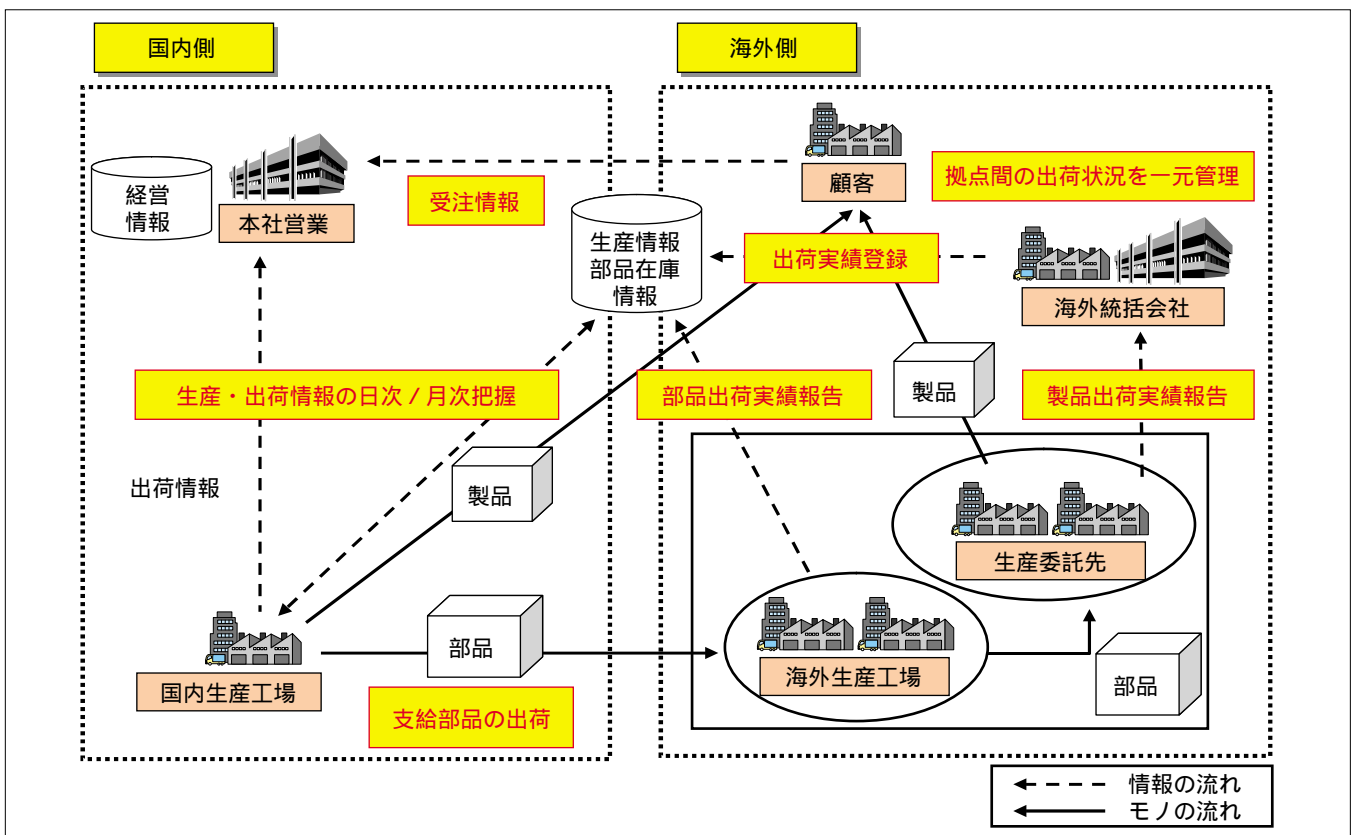
上記生産体制下では、製品力の維持、製品品質の安定化の観点から、製品に組み込む主要部品は引続き、国内マザー工場で生産、又は調達し、海外工場へ供給する形態をとっている。

海外工場における生産台数、生産機種数の増加に伴い、国内マザー工場と海外工場との間でやり取りする生産管理情報も増加し、さらに、近年は国内マザー工場が担当する海外向け部品の生産比率も高まっている。このため両生産工場の生産運営を安定化させるためには、海外工場立ち上

げ当初の小規模生産時の人手に依存した管理・運営では限界がきている。

そこで当社ではITを活用しながら、生産計画、在庫情報及び手配・出荷進捗(しんちやく)といった生産管理情報のタイムリーな集約、各工場間での情報共有化によって、国内と海外との連携性を高め、生産管理にかかわる業務負荷の軽減を図るとともに、情報管理メッシュの見直し、既存生産管理業務との整合性向上といった業務改善も図り、事業運営力の維持・強化を推し進めている。

今回、海外での伸張が著しい自動車電装品、車両機器について、業務の改善と支援ITツールの整備を行い、国内、海外工場の事業強化を図った。



国内・海外工場におけるグローバルオペレーションモデル

海外工場の生産情報をタイムリーに取込み、国内工場の生産システム(生産指示、出荷指示)へ反映させ、海外での生産を遅欠品なく円滑に行えるよう部品供給を行っていく。